



研修初日(8.22)

① 研修開始です。



② 研修は石澤尚史計画部長の挨拶で始まりました。



③ 中澤文彦利根沼田森林管理署長より演習地を含む管内の概要について説明がありました。



④ プロセスマネージャーの西さんから研修の説明を行い、研修が始まります。



⑤ 最初の講義が開始しました。林野庁岩田講師による「准フォレスターの役割、森林・林業再生プランの概要」と「市町村森林整備計画の概要」の講義です。



⑥ 受講生からは1枚のホワイトボードに書ききれない程、たくさんの意見や質問が聞かれました。



⑦ 高橋伸幸群馬県森林組合連合会指導課長による「森林施業の集約化(提案型集約化施業)」についての講義です。



⑧ 講義の1コマです。施業の集約化についてイラストを用いて説明しています。

研修2日目(8.23)



① 澤口勇雄岩手大学教授による「路網と作業システム」についての講義です。



② 作業道の作設指針についての説明です。



③
いよいよ今回研修のメイン形式「グループ演習」のスタートです。グループになることで、他人がもつ経験や考え方を知り、多様な視点が養われます。また、知識のみでなく、コミュニケーションを通じて対人能力を培うことができます。



④
グループ演習の進め方について、関東森林管理局の松本講師から説明しました。



⑤
グループ毎に間伐事業のコスト計算を算出しています。



⑥
どの班も真剣です。



⑦
各班の結果がとりまとると、班毎に発表を行い、成果等を共有します。



⑧
続いて机上演習。路網(道)を計画する上で支障となる箇所を図面を見ながら考え、路線と間伐箇所を計画します。



⑨
発表の様子です。特に悩んだ箇所や注意を払った点等について各班から発表があります。



⑩
発表終了後、林野庁大貫講師から講評を行いました。翌日、現地で確認が必要な箇所等についてアドバイスをしています。

研修3日目(8.24)



①
3日目は現地演習です。グループに分かれて調査します。写真は、間伐が選れているスギの森林です。将来像を描きながら今後どのように整備していくのか検討しています。



②
こちらは広葉樹が進んできたカラマツの人工林。長伐期(80年くらいまで育ててから伐採)にするのか、早くに伐ればよいのか、また、伐つ後はどのようにするのか等様々な事を検討しています。



③ 現地でも班毎に話し合った事を発表し、各班の成果を共有します。



④ 発表の後、講師から総評があります。写真右は、内藤健司講師(宇都宮大学名誉教授)



⑤ 写真左は、正木隆講師(森林総合研究所群落動態研究室長)



⑥ 午後は昨日の演習で路網計画を検討した現場です。写真は沢をどのように渡るかについて検討しています。関東森林管理局の金子講師が概況の説明をしているところです。



⑦ 写真は急傾斜の尾根に道を付ける際の問題点等について班内で検討した結果について発表しているところです。急傾斜地の道は、雨水の影響を受けやすいため配慮が必要です。



⑧ 現地を調査することにより、机上では分からなかった問題点が見えてきます。



研修4日目(8.25)

① 市町村森林整備計画を作る演習です。各班には共通の情報を示した上で検討を進めてもらいます。



② 図面では読み取れないところは、空中写真を見て判断します。



③ どの班も6時間以上かけ、念入りに検討しています。



④ 同じ条件であるにもかかわらず、各班それぞれ個性的な成果が発表されます。



⑤ 発表終了後、演習を通して出てきた問題点等を整理します。解決できるものは研修期間中にクリアにします。



⑥ 講習発表終了後に内藤講師、正木講師からの講評が行われました。



⑦
おまけ
大貫講師による木材の流通・販売等の話も行われました。



研修最終日(8.26)

①
時間の関係上、昨日説明できなかったことを朝一番で行います。昨日のことをもう一度思い出しやすい機会になります。



②
後期研修までに用意をする課題の説明を行います。後期研修は市町村森林整備計画の演習に加え、プランナーが加わり経営計画の演習も行われます。



③
中身の濃い研修だけに最終日もなるとこれまでどんなことをしてきたのか、思い出すに一苦労。研修初日から振り返りを行います。



④
これまでの研修を振り返った後で最後のグループワークとなる、まとめに入ります。



⑤
前期研修、最後の発表です。理想とするフォレスター像、フォレスターになるためにしなければならないこと等一人ずつ発表します。



⑥
一人一言発表に続いて閉講式です。指導普及課東企画官から閉講の挨拶です。



⑦
昼も夜も厚かった研修も無事終了。2ヶ月後の研修までしばらくのお別れです。



⑧
研修終了後に行われた群馬県を受講生による「改良型くり農」の説明です。これなら誤ってクマがかかる可能性も低いと思われれます。